



2023年07月 第21巻 第7号

### かく語りき—聖人の言葉

感覚の対象に対する執着が減るのに応じて、神への信仰は増えるのだよ。

…シュリー・ラーマクリシュナ

花を摘むとき、白檀を石で擦るとき、香りが漂ってくるように、常に神を想うことで霊的な目覚めが得られます。

…シュリー・サーラダー・デーヴィー

魂（ジーヴァートマン）は自分自身を見せようと奮闘している、と不二一元論者はいう。長い努力の末に魂は、臣民は常に臣民であり続けなければならないことに気づく。そして無執着が始まり、自由になる。

…スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

### 今月の目次

#### 目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2023年9月の生誕日

・2023年6月月例会

「愛の重要性：人類愛から神聖な愛へ」  
スワミー・ディッヴィヤーナターナンダ

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### お知らせ

各プログラムに参加を希望される方はご一報ください。

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedanta.jp.com/>

### 2023年9月生誕日

シュリー・クリシュナ  
9月7日（木）

スワミー・アドヴァイターナンダ  
9月13日（水）

### 2023年6月18日例会

「愛の重要性：人類愛から神聖な愛へ」  
スワミー・ディッヴィヤーナターナンダ

愛は強力な力です。

愛のあるところに恐れはありません。

愛はあらゆる種類の恐れを追い払う、と主イエスは言いました。純粹で無私の愛は神聖な力です。

「信仰、希望、愛という三つの美德のうち、愛が最も偉大である」と聖パウロは言いました。



愛は私たちの日常生活の中で非常に一般的な概念です。親は子供を愛し、夫は妻を愛し、学者は自分の研究課題を愛し、農民は作物を愛し、弁護士は職業を愛します。つまり、愛はさまざまな形であらわれているのです。愛は家族を育て、社会を結びつけます。愛が家族から国家へと広がると、その愛はより深く、より広くなります。インドでは、イギリスからの独立闘争の最中に、非常に多くの若者が祖国の自由という大義のために命を落としました。これらはすべて祖国への愛に根ざしたものでした。日本人の愛国心についてスワミー・ヴィヴェーカーナンダは「日本人の自らに対する信頼と祖国への愛…日本人は祖国のためにすべてを

犠牲にする覚悟があるので偉大な民となったのだ」と言いました。愛は私たちの人生を動かし続ける重要な要素です。しかし愛することは簡単なことではありませんし、本当の愛は珍しいです。

「愛」という言葉は私たちの日常生活で非常によく使われます。しかし、誰もが子供の頃から親の愛を受ける、という幸運に恵まれているわけではありません。愛情不足が原因で、成長すると多くの子供たちが犯罪者になってしまいます。その一方、愛、同情、思いやりを示すことによって、人は他者を変えることができます。このことに関する物語を一つ言います。

ある心理学の教授がアメリカのボルチモアにあるスラム街に研究チームを派遣し、その若者たちについて調査を行いました。約 200 人の子供たちにインタビューした結果、恐ろしい結果が出ました。報告書によると、その子供たちのほとんどは成長すると必ず犯罪者になる、というのです。ちょうど 20 年後、同じ教授が別のチームを同じ場所に派遣したところ、200 人の子供たちのうち 180 人を特定することができました。そして再び彼らにインタビューしてみると、驚いたことに、20 年前の研究の予測は間違っていたことが判明しました。犯罪者になるだろうと予測された子供たちのほとんどは、責

任ある市民になっていたのです。そこで調査チームが原因を調べてみると、シーラ・オルキーという教師がこれら200人の幼い子供たち全員の世話をしていたことが分かりました。彼女は彼ら一人一人の世話をし、彼らの問題に耳を傾け、それぞれの長所を見つけて、彼らの人生を具体化する助けをました。彼女は愛をもとに教えたのです。しかし、必要に応じては、手に負えない子供を罰するために愛のムチを使うこともありました。ゆっくりと、これらすべての子供たちは彼女の愛の軌道のもとに置かれ、その愛が彼らの人生を形成しました。もし彼女の愛がなかったら、彼らは犯罪者になっていたでしょう。

愛は家族を結びつけますが、愛の不足はしばしば家族を崩壊します。ここでは二つの家族の例を紹介します。一つ目の家族は、夫婦と子供2人です。彼らは非常にリッチな富裕層で、国際都市で宮殿のような建物に住んでいます。夫が朝起きたときに、お茶を淹れてほしくて妻を起こそうとしますが、妻は起きません。夫は自分の運命を呪いながら自分でお茶を淹れます。彼は子供たちを起こそうとしますが、それも無駄に終わります。子どもたちは「寝ている邪魔をしないでよ」と文句を言います。学校が始まって、子供たちは学校が好きではありません。子どもたちは「毎日同じで退屈なんだもん」と

文句を言います。彼らは「朝ごはん、美味しくない」と母親を責め、母親は夫が家庭に気を配らなかったことを責めます。父親は実は大企業を経営していて、顧客に対してとても親切なのですが、妻と子供たちには無礼です。一方、子供たちは親に対して心を開くことができません。つまり、ある意味では、家の全員が何らかの不満を抱えているということです。表面的には、まったく快適な環境で生活していますが、彼らの生活には、最も重要な要素である愛が欠けています。

もう一つの家族があります。彼らは非常に貧しく、生活のために非常に一生懸命働かなければなりません。粗末だが清潔な家に住んでいます。みんな早起きで、妻が家族のために食事を作っているとき、夫も手助けをします。子供たちは授業の準備をし、家の中庭を掃除します。彼らは誠意をもって学び、一生懸命働きます。夕方には全員が一緒に座って、その日の出来事を語り合います。この家族は、それぞれが強い愛によって結ばれているので家庭円満です。このように、愛は家族生活の源泉です。

初めのうち、愛は自分の肉体、家、家族、職業、周りの大切な人びとの小さな輪、に限定されています。しかし、この愛はもっともっと広げることができます。愛の最大のあらわれは、全人

類を抱きしめるほどにハートを広げた聖人に見られます。彼らの愛には人種、言語、国という境界はありません。近代では、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの並外れた人生があります。彼らの生涯からいくつかの例を挙げてみましょう。

ある人がスワミー・ヴィッギヤーナナンダに、「あなたはシュリー・ラーマクリシュナの何に惹きつけられたのですか」と尋ねました。ヴィッギヤーナナンダは即座にこう答えました「その頃、私はシュリー・ラーマクリシュナの靈性の偉大さ、放棄、神への没入などのことは全く分かりませんでした。私が惹きつけられたのは、師の純粋な愛です」「師の愛は、それはそれは深いものでした。このような愛を私は両親、兄弟、友人からも受け取ったことがありませんでした」。シュリー・ラーマクリシュナの他の多くの弟子たちも同じ意見でした。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはよくシュリー・ラーマクリシュナについて、彼は「愛」の体現者だ、と言いました。

ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは子供の頃、両親の家事を手伝っていました。ベンガルで大飢饉が起こったとき、彼女の父親は貧しいブラーミンでしたが、地元の貧

しい人々に調理した食べ物（キチュリ）を配ることにしました。調理した食べ物を皿に盛るとき、幼いサーラダーは小さな手であおいで熱い食べ物を少し冷まし、食べやすいようにしました。妻となってからは、病気の夫の世話をし、遠くや近くから来る信者たちの世話をしました。実家で兄弟たちと住んでいたときは、昼夜を問わず家族のお世話をしました。時々、信者の家族が前触れもなしに突然やって来ることがありましたが、彼女は嫌がる素振りを少しも見せず、愛情を込めて彼らを受け入れ、寝床を作り、食べ物を作って提供したので、信者たちは心から寛ぐことができました。

信者の中には、イニシエーションを熱心に求めて彼女のところにやって来る者もいました。彼女は病気のときでさえも、喜んでイニシエーションを受けました。彼女には他者の罪を負い、他者のために喜んで苦しむ力がありました。毎日ジャパをすることができないと不平を言う人たちに対して彼女は「私が責任を負います。あなたは何もしなくてもいいです」と言いました。実際、彼女が他者のためにジャパをしている姿が見受けられました。多くの弟子たちが毎日の瞑想を怠ることを知ったからです。コルカタの非常に暑い季節に、彼女は布で体を覆い、何時間も信者からのプラナムを受けました。ホーリー・マザー・シュリー・サーラ

ダー・デーヴィーはまさに愛の体現者だったのです。彼女にとって、全世界が彼女自身でした。他人など誰もいませんでした。彼女の愛は本当に普遍的なものだったので、信者も信者でない人も、良い子も悪い子も、カーストの低い人、貧しい人、教育を受けていない人、そして鳥や動物までもが彼女の限りない愛を受けました。彼女の愛は、子供たちの今生の幸福だけでなく、別の世にも向けられていました。スワミー・アベダーナンダはサーラダー・デーヴィーへの有名な賛歌の中に次のように書きました。

スネーヘナ バダナーシ マノースマ  
ディーヤン  
ドーシャーシ アシェーシャーシ サ  
グーニー カローシ  
アーヘートゥナー ノー ダヤセ サ  
ドゥシャーシ  
サヴァーンケ グリヒートワー ヤド  
イダム ヴィシトウラム

あなたは母の愛のやさしきで私たちの心を縛り、  
私たちの欠点だらけの人生を良い性質に変えてくださる。

あなたは見返りを求めることなく、欠点ばかりの私たちに慈悲深い。

そしてありのままの私たちを受け入れ、あなたのひざの上ののせてくださる。

これは本当に驚くべきことです。

(プラクリティ パラナム 第9節)

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、一切を放棄した僧侶で、愛情深い母親のハートの持ち主でした。彼がシカゴの宗教議会で世界を揺るがす演説を行った日、自分の成功を振り返って自分が世界の頂点にいると感じていたでしょうか？ いいえ、それどころか、彼は貧しい祖国のことが心配で一晩中眠れませんでした。同胞たちが劣悪な環境にいることを思うと、豪華なホテルの部屋で眠ることなどできなかったのです。そして一日にまともな食事をする余裕すらない同胞の悲惨な状態を思い、涙を流しました。ベンガルが疫病に見舞われたときのことです。当時、救援活動の費用のための多額の寄付が集まることは考えられなかったため、彼はベルル・マトの土地を売却しようとさえしました。

もう一つの出来事は語る価値があります。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはヴィッギヤーナナンダジーと共にベルル・マトに滞在していたときの事です。ヴィッギヤーナナンダジーはほとんどアラハバードにいましたが、たまたまベルル・マトに滞在していました。ある夜、ヴィッギヤーナナンダジーは真夜中に目が覚めたので部屋の外に出ました。するとスワミー・ヴィヴェーカーナンダがベランダを行ったり来たりしているのが見えました。ヴィッギヤーナナンダジーが「どうしてまだ起きていらっしゃるのですか？」

と尋ねると、スワミーは「眠っていたら突然、誰かに揺さぶられたかのように目が覚めたのだよ。そして感じたのだ、どこかが災難に見舞われ、人々が苦しくて泣いていると」。ヴィッギャーナナンダジーはスワミーの言葉の意味が分かりませんでした。しかし翌朝、新聞はフィジーの島で大規模な火災が発生し、数人が命を落としたことを報じました。

愛が非常に強力であるのと同じように、愛の反対である憎しみや嫉妬は私たちを弱くする力です。愛は縛り付け、嫉妬は分けます。愛は人を暗闇から引き上げ、憎しみは私たちを地獄の底に墮落させます。私たちの社会で見られる暴力のほとんどは、憎しみや嫉妬から生まれています。人間の敵のうち、憎しみと嫉妬は自らの敵とされています。それらは相互に関連しています。憎しみは相手だけでなく自分自身も焼き尽くします。他人を憎む人は、常にイライラして苦々しい気持ちを抱いています。その人は憎む相手に危害を加える機会を逃しません。二つの例を言います。

ある学校の教師は、その愛情深い性格ゆえに生徒たちから非常に愛され尊敬されていました。彼は校長先生にもしかるべき敬意を表しました。しかし校長は、その教師が生徒たちから人気があることにがまんできなかつたので、

教師の存在にイライラしていました。何年も一緒に過ごしていましたが、校長は愛情や敬意を持って彼に話しかけたことは一度もありませんでした。教師の人気が高まるほど、校長は彼に対して嫉妬心を抱くようになりました。数年後、校長はその教師を別の学校に異動させました。憎しみと嫉妬のせいで、校長はその先生の良いところを見つけないことができなかったのです。

不眠、不安、極度の疲労に悩まされている中年女性が治療を求めて医師の診察を受けました。彼女は時々自殺を考えていたことも医師に告白しました。医師は最初、彼女の問題の背後にある原因を特定できませんでした。しかし、彼女を何度も診て質問を繰り返すうちに、彼女が本当は個人的な家族の問題のために自分の妹に対して極度の嫉妬を感じていることが分かりました。

その頃、偶然その女性の家を訪れた聖者が彼女に改善策を提案しました。聖者は、「神に委ね、『妹に対するこの嫌悪感から解放されますように』と心から神に祈りなさい」と言いました。女性は聖者のアドバイスに従い、心から祈ることで、彼女を内側から殺している暗闇から抜け出すことができました。言い換えれば、怒りと嫉妬という二つの敵を乗り越えるための救済策があるということです。祈りや瞑想とともに、日々の行為の中で無私を実践すれば、

心から憎しみや嫉妬の感情を取り除くことができるのです。愛の最高の顕現は、神への愛、つまり神聖な愛です。私たちが自分と自分の周りの小さな輪に対して抱いているこの愛を、もっともっと広げていくことができます。もし私たちがバクティを実践すれば、この愛は拡大します。なぜなら神はすべての存在の中に宿っているからです。ですので、神を愛することで、実はすべての存在を平等に愛することができるのです。バクティ派は、ナヴァダ・バクティという神に近づくための九つの方法を定めています。私たちは神を、父として、母として、友人として、あるいは配偶者として、さらには子供として、近づくことができます。そうして私たちが神との個人的な関係を築くことができれば、神とつながるのは簡単になります。

私たちはこのことをシュリー・ラーマクリシュナの生涯に見出すことができます。彼はただ切望することで、至福に満ちた聖母のビジョンを受け取りました。ヴリンダーバンの牛飼いの少年たちやアルジュナはシュリー・クリシュナに友人として近づきました。ヤショーダーはシュリー・クリシュナを自分の子供とみていましたし、ゴピーたちは彼を最愛の人として愛しました。近代では、シュリー・ラーマクリシュナの信者の一人で、ゴパール之母と呼ばれるアゴルマニ・デーヴィーは、自

分が選んだ神を幼い子供とみてお世話することで、人生に大きな変化が生まれました。彼女は非常に質素な生活を送り、ジャパと瞑想に長い時間を費やしました。彼女が選んだ神は赤ちゃんゴパーラでした。彼女の人生には、ゴパーラを全身全霊で奉仕する以外には、何もありませんでした。そしてある日、赤ちゃんゴパーラは実際に彼女の人生の中で生きた存在になったのです。彼女はゴパーラがあちこちに走りまわったり、食べ物の供え物を食べたり、ベッドの横で眠っているのを見ることができました。彼女の選んだ神への愛はとても強かったので、主は自分自身を抑えることができず、実際に彼女の人生にやってきて、彼女を祝福しました。

靈性の求道者が神への強い愛を持つようになると、神は自分自身を抑えることができなくなります。彼は信者の呼びかけに応え、神聖で至福に満ちた姿のビジョンを授けます。その瞬間、信者に大きな変化が起こります。信者は「私」と「私のもの」という感覚をまったく失います。「未熟な私」が「熟した私」に溶け込みます。愛は、神の愛の中で、完成するのです。信者がその状態に達すると、偏見なくすべてを平等に愛することができるようになります。それが本当の愛です。しかし、その愛が本物かどうかを判断するには条件があります。スローミー・ヴィヴェ

カーナンダは、本当の愛の条件を次のように説明しました。

三角形には三つの角があります。愛の三角形の一角目は、真の愛人は取り引きをしない、ということをお示しします。真の愛人は、愛のために愛します。取り引きのあるところに、真の愛が存在するはずがありません。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは一つの例をお示しました。ある王がジャングルにいる聖者を訪ねた時のことです、聖者の放棄、智慧、献身に深く感銘を受けた王は、聖者に「贈り物をしたいので宮殿に来てください。[私に恩恵を与えるために私から何かをお受け取りください]」と言いました。聖者は最初、「森からの恵みだけで必要なものは満たされています」と断りました。しかし、繰り返し懇願された聖者は同意し、何日か経ってから王の宮殿を訪れました。宮殿に入ると、王が神に祈っているのが聞こえました「主よ、もっと子供をお与えください、もっと富をください!」。それを聞いた聖者が宮殿を立ち去ろうとすると、王は「マハーラジ、お待ちください。祈りを終えさせてください。それからあなたの世話をいたします」と叫びました。聖者は「物乞いから贈り物を受け取ることはできません。神に世俗的なものを乞うあなたは物乞いです」と言いながら王の宮殿から出て行きました。

二角目は、愛は恐れを知らない、ということをお示ししています。多くの人は罰を恐れて神に祈ります。彼らは「神を恐れる信者」と呼ばれますが、それは本当の信仰ではありません。スワミー・ヴィヴェーカーナンダが示した例はこうです。ある母親が道を歩いていると、数匹の犬が吠えながら彼女追いかけてきたことを想像してください。彼女は身を隠す場所を見つけようとするでしょう。しかし、同じ女性が子供を膝に乗せているときに突然ライオンに遭遇したら、彼女は子供を守るためにためらうことなくライオンの口に入るでしょう。子供への愛によって恐怖が消えたのです。このように真の愛は恐れを知りません。

三角目は、愛は競争者を知らない、ということをお示ししています。誰もが自分なりの愛の理想を持っています。最も崇高なものを愛する人もいれば、低俗なものを愛する人もいます。愛の理想が大切なのは、愛人はそれを見るからです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは言います「誰もが、『ジプシー女の顔を絶世の美女ヘレナだと思ひ込む [一]』という名言を真実だと認めています。見物人として脇に立っている男は、ここでの愛が見当違いであることに気づいています。にもかかわらず愛人は彼の [理想の女性像] ヘレナを見て、全然ジプシー女を見ません。ヘレナであれ、ジプシー女であれ、

私たちの愛の対象は、実際には私たちの理想が形となったものなのです……男も女も崇拝するその理想は、彼ら自身の中にあります。誰もが自分の理想を外の世界に投影し、その前にひざまづくのです」。

終わり。

(※日本ヴェーダーンタ協会出版『バクティ・ヨーガ (愛の三角形の章)』を参照ください)

〔一〕シェイクスピア『真夏の夜の夢』  
五幕一場

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会 - イベント概要

今年のプログラムのテーマは、『スワミー・ヴィヴェーカーナンダのヨーガの概念』だった。プログラムは予定通り午後2時にスタート。まず司会のランジャン・グプタさん(英語)と横田さつきさん(日本語)が挨拶をされた。

続いて、スワミー・メーダサーナンダ、スワミー・ディッヴィヤーナターナンダ、レオナルド・アルヴァレスさん、泉田シャンティさんがヴェーダの平安の祈りを唱えられた。

次に、スワミー・メーダサーナンダの先導で特別な祈りを聴衆全員が起立して唱和し、その後、数分間の黙禱があった。

次に、シビ・ジョージ駐日インド大使より、スワミー・ヴィヴェーカーナンダに花束が奉納され、日本ヴェーダーンタ協会の隔月刊誌『不滅の言葉』特別号が披露された。

続いて、ジョージ大使の就任スピーチがされた(このスピーチとその後のその他の内容は、次号に掲載予定)。

二人目の講演者は、東京大学大学院人文社会系研究科インド哲学・仏教学研究室の加藤隆准教授で、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダのギャーナ・ヨーガの概念」について話された。

次に、清泉女子大学地球市民学科の松井ケティ教授が「スワミーのカルマ・ヨーガの概念」について詳しく説明された。松井教授のご専門は包括的平和学習、協調的コミュニケーション法で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀委員会の長年のメンバー。

次に、真言宗善通寺派の佐藤浄慶尼僧が「スワミー・ヴィヴェーカーナンダのバクティ・ヨーガの概念」について語られた。

次にレオナルド・アルヴァレスさんが「スワミー・ヴィヴェーカーナンダのラージャ・ヨーガの概念」について

語られた。レオナルド・アルヴァレスさんは、上智大学大学院・心理学専攻・博士後期課程にて「マインドフルネス三性質（トリグナ）とウェルビーイングの関係」について研究に取り組まれている。

これらのスピーチに続いて、スワミー・メーダサーナンダが、四つのヨーがすべてを総合的に説明なさった。

短い休憩が続き、出席者には軽食が提供された。

イベントの後半は文化プログラムだった。シャンティ泉田さんを中心とした日本人信者による賛歌詠唱とディック・ヴィヤーナターナンダジーが率いるインドの信者による賛歌詠唱があった。

次にインドから来たさまざまな舞踊グループによる素晴らしい踊りが演じられた。

最初はアート・オブ・ソウル・ダンス・スクールの皆さんで、漁師たちの暮らしを題材にしたベンガルの民族舞踊だった。

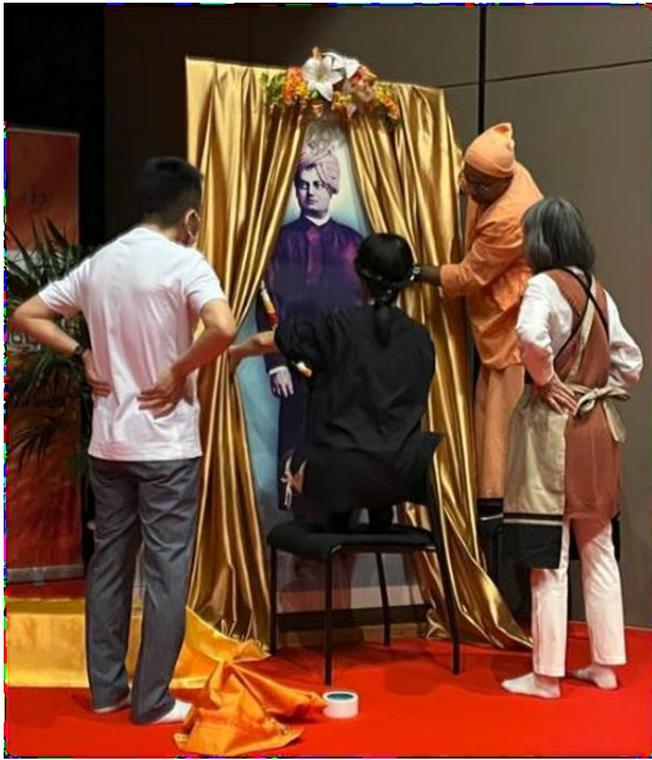
続いてはインド北西部グジャラート州の踊り、ガルバが披露された。グジャラート州の村の広場に村人が集まって踊ったことが始まりで、今も踊り続けられている。

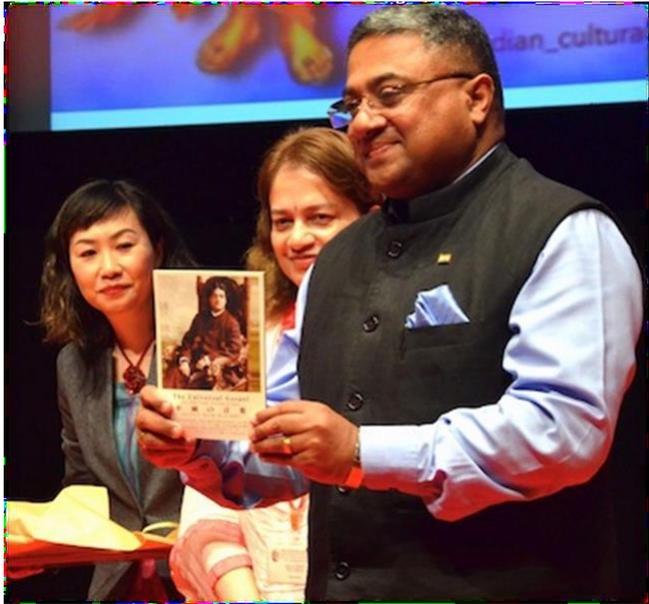
続いてマハーラーシュトラ州の民族舞踊ゴンドルが披露された。ゴンドルとは、レヌーカやバヴァーニーなどの神々に捧げる儀式の一部で、神話や民俗伝説をドラマチックに語るものだ。ゴンドルの踊りは、戦士であり聖者のパラシュラムが創ったと言われている。踊りはダイナミックな動きで構成されており、ダンサーは華やかな衣装や装飾を身に付ける。

次にラージャスタン州の踊り、カルベリヤが披露された。この踊りは、黒いスカート姿の女性が蛇の動きを模した優雅な回転する動きで始まる。

午後の部の最後は、パンジャブ地方の踊りバングラであった。バングラは、エネルギッシュなダンスで、地域の祝いの場やお祭りなどで農民が躍ったのが始まりとされている。

最後に、日本ヴェーダーンタ協会事務局長の鈴木敦さんが日本語で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ祝賀委員会委員のジャグモハン・チャンドラニさんが英語で感謝の言葉を述べられた。







## 忘れられない物語

### 「川のように流れる」

高名な禅師のもとで修行をしている若い武道家の話である。ある日、師は中庭で練習を見ていると、その若者が技術を完成させようと努力しているにもかかわらず、他の弟子たちの存在のせいでうまくいっていないことに気づいた。師には若者の苛立ちが分かった。師は若者のところに行き、肩をたたいて

「どうかしたのかね？」と尋ねた。

「分かりません」と若者は緊張の面持ちで答えた。

「いくら頑張っても、動きがうまくできないのです」

「君は技術を習得する前に、調和について理解しなければならない。私と一緒に来なさい、教えてあげよう」と師は答えた。



師と弟子は建物を出て、森の中を少し歩いて小川に着いた。しばらくの間、師は水際に静かにたたずんでから言った。

「この流れを見てごらん」「行く手には岩がある。水はいらいらして岩に激突するだろうか？水はただ岩の上や周りを流れ、どんどん進む。水のようになりなさい、そうすれば調和とは何かがわかるだろう」



若者は師の助言を心に留めた。すぐに彼は周りの他の弟子がほとんど気にならなくなった。彼の完璧な動きを妨げるものは何もなくなった。

## 今月の思想

自由になりたいのなら、  
感覚からくる毒を避けなさい。  
真実、愛、許し、  
そして純真さと至福の甘露を  
見いだしなさい。  
地、火、水、風、空、  
あなたはそのどれでもない。  
もし自由になりたいのなら、  
あなたは真我、これら全ての目撃者、  
目覚めた心だということを知りなさい。

アシュターヴァクラ・ギター

**発行：日本ヴェーダータ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)